

日本語教材としての映画やアニメ：架空のキャラクターの話し方
Teaching Japanese using films and anime: How do fictional characters talk?

映画やアニメを教材として使って日本語を教える際に問題になるのが、キャラクターが話すスタイルだ。casual speech の中に様々なスタイルがあり、学習者が背景を知ることなしに、これらのスタイルを理解することは難しい。本発表では、この様々な casual Speech のスタイルをどう学生に理解させるか、そしてどう教室活動に活かせるかについて述べ、参加者の方々とアイデアの交換をしてみたい。

様々な casual speech スタイルの中で最も多く見られるのが gendered Speech だ。gendered speech は日本語の特徴の一つとして教科書などにも昔から取り上げられてきた。映画やアニメの中のキャラクターにも gendered Speech を使う例が多いが、実際には、我々が歴史的に使われてきたと考えるような使い方をしていないわけではない。特に女性語について中村（2014）は、女言葉はイデオロギーであり現実の多様な話し方を反映していないと指摘している。また、金水（2003）はこれらの様々なスタイルを「役割語」と名付けて、それぞれの場面でキャラクターが演じるステレオタイプ化された役割を担う話し方だと提唱した。

Gendered speech を金水が提唱した「役割語」として位置付けると、キャラクターの話し方に見られる特徴が明らかになってくる。例えば、女性が男性のスタイルを使う例が「聲の形」や「耳をすませば」などにも見られて、意外に多い。授業ではこのようなステレオタイプを利用した役割語としての話し方について、学生と共に考えることも有意義な教室活動になるのではないだろうか。

References

- Kinsui, S. (2003). *Virtual Nihongo yakuwarigo no nazo*. Tokyo: Iwanami Shoten.
Nakamura, M. (2014). *Gender, language and ideology: A genealogy of Japanese women's language*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.